

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471300259
法人名	社会福祉法人 大磯恒道会
事業所名	グループホーム こゆるぎの家
訪問調査日	平成 20 年 10 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 18 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1471300259
法人名	社会福祉法人 大磯恒道会
事業所名	グループホーム こゆるぎの家
所在地	神奈川県中郡大磯町国府本郷1194-1 (電話) 0463-72-6615

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 16 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	60,600 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	360 円	昼食	400 円
	夕食	370 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,130円 (おやつ代を含む)			

(4)利用者の概要(平成20年8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85, 6 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	二宮診療所、東海大学大磯病院、鈴木歯科医院、秦野病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ◆農地や柿の木が散在する中に位置し、同一法人の在宅介護支援センターやヘルパーステーションと併設している。隣には障害福祉センターやケアセンターが並び、障害福祉センターにあるティーサロンにお茶を飲みに出かけるなどしている。 ◆建物は2階建て2ユニットで明るく、バリアフリー構造に加えて、手すりに蛍光テープを貼るなどの工夫もしている。 ◆法人で理念をキーワード化した「声かけ・気くばり・思いやり」に基づき、利用者の生活ペースを大切に、それぞれの希望や思いにそって支援している。 ◆地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域の人を招待するなど、地域との交流に努めている。平成20年度は、地域の子どものとの交流の機会を作ることを運営推進会議で取り上げ、小学校、幼稚園との交流を計画している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善課題となった事項はなかったが、サービスをふりかえり、利用者の個性・力をより引き出すために、利用者の得意分野である味噌やおやつ作り、編み物など物作りの回数を増やすなどしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員の参加で、常勤職員は全項目、非常勤職員は分担して、話し合い作成している。自己評価の実施を通して、地域との交流を一層密接なものにしようとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を年4回開催し、事業所の入居状況・運営状況の報告、事業所の今後についての意見交換のほか、毎回主要テーマを設定して話し合い、今年度は地域の子どもたちとのふれあいに向けて話し合っている。法人本部からも総合施設長が出席して、情報の共有、意思の疎通をはかり、会議内容は議事録に記録し、ケース会議などで職員に周知している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年2回開催している。苦情、意見等はいつでも職員が直接聴くようにしている。聴き取った内容は「家族意見聞きシート」に記入し、申し送りやケース会議で職員間で検討して対応している。法人内外の苦情等の受付窓口を重要事項説明書に明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の散歩コースのほか、借りている畑への往復、隣の障害福祉センターのティーサロンなどに出かけ、地域の人にすすんで挨拶している。事業所の季節行事のそうめん流し、餅つきなどの際には、近隣の人に参加を呼びかけている。地区の文化祭に書道や貼り絵を出展したり、お祭みこしの休憩場所として提供するなど交流する機会を多く作っている。楽器演奏、折り紙、外出手伝いなどで多くのボランティアの協力を得ている。今年度は小学校、幼稚園との交流も計画している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人で理念をキーワード化した「声かけ・気くばり・思いやり」を掲げ、さらに法人内の事業所のスローガン「ゆっくり、一緒に、楽しんで」を入居案内に明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入職時研修の際に理解してもらっている。また、事務室に掲示するとともに、職員全体会議やケース会議等で確認をしている。理念を意識して、利用者一人ひとりのペースに合わせて、レクリエーションや地域との交流など、日々の活動に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩で近隣の人と挨拶したり、事業所の季節行事のそうめん流し、餅つきなど、近所の人に参加を呼びかけている。地区の文化祭に書道や貼り絵を出展したり、お祭りこしの休憩場所として提供するなど交流する機会を多く作っている。楽器演奏、折り紙、外出手伝いなどで多くのボランティアの協力を得ている。今年は小学校、幼稚園との交流も計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員参加とし、常勤職員は全項目、非常勤職員は分担して、話し合い作成している。サービスをふりかえり、利用者の個性・力をより引き出すために、利用者の得意分野である味噌やおやつ作り、編み物など物作りの回数を増やすなどしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年4回開催し、事業所の入居状況・運営状況の報告、事業所の今後についての意見交換のほか、毎回主要テーマを設定して話し合い、今年度は地域の子どもたちとのふれあいにに向けて話し合っている。法人本部からも総合施設長が出席して、情報の共有、意思の疎通をはかり、会議内容は議事録に記録し、ケース会議などで職員に周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	町役場、消防署などと情報交換を行っている。また、町主催の研修会に職員を講師として派遣して、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	面会時や家族会で近況を伝えている。1ヶ月分の預かり金明細書とともに、その月の様子を記載した書面を毎月家族に送り、年4回発行する「こゆるぎ通信」で職員異動などを知らせている。突発的なことは電話で連絡し、内容を「家族への意見」用紙に記録してファイル化している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会を年2回開催している。苦情、意見は意見箱などの間接的ではなく、家族以外のいつでも職員が直接聞くようにしている。聞き取った内容は「家族意見聞き取りシート」に記入し、申し送りやケース会議で職員間で検討して対応している。法人内外の苦情等の受付窓口を重要事項説明書に明記している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	運営者は定例会議で、管理者から意見等を聞く機会を持っており、法人内異動の際などに配慮しており、異動を最小限に抑え、職員の入れ替わりの際には利用者の負担だけでなく、職員に負担がかからないよう引継ぎ期間を設けている。また、職員間でも働きやすい職場環境に向けて、何でも話し合える職場環境を心がけ、親睦会などを催すなどもしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	「運営規程」に採用時研修(1ヶ月)と継続研修(年1回)を定めている。「研修規則」に部内研修、部外研修を定義し、内容によって費用負担、勤務扱いの可否を定めている。同一法人の事業所と月2回、相互研修や交流等を行っている。平成20年度の研修実績に、薬の副作用、疥癬、身体拘束などがあり、研修報告書を作成しカンファレンス時に報告をしたり、研修資料のコピーを全職員に配付するなどして、職員間での共有化している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県認知症高齢者グループホーム協議会に加入して、研修会に参加し、地域の同業者との交流や情報交換を行っている。また、地域の管理者同士の連絡会を作り、交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何回か来所してもらい、利用者と会話を楽しんでもらったりしている。他の利用者が自分の居室へ、新しく入居する方を案内して、交流をすることもある。入居にあたり本人の生活歴等を聞き取り、時間がかかっても本人に合わせることを一番として、その方に合わせてゆっくりと接している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らしている感覚を大切にして、書道が得意な人に掲示物を書いてもらったり、珍しい柿渋の一閑張りを職員が教わることもある。訪問調査での昼食時に、「今日のサラダは○さんが切ったサラダです」、「中のリンゴは△さんにいただきました」と紹介し、利用者、職員の皆で感謝している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり、利用者の生活歴や趣味等を聞き、入居後は日常の本人との会話を中心に考え、話しかけを大切にしている。意向をうまく伝えにくい人には、何気ない会話を心がけ、表情・しぐさから汲み取るようにしている。把握した利用者の思いや意向等は、申し送り、ケース会議で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を踏まえ、複数の職員と家族での検討を基に、日々の記録や通院・往診ノートを活用して、ケース会議で介護計画を作成している。家族に介護計画を確認してもらい、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月後、4ヶ月後、6ヶ月後それぞれの時点で評価し、見直しを行っている。状況に変化があった時は、現状に即して見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	県の「認知症介護サービス事業開設者研修」受講者の現場体験の受入れを行っている。同じ敷地内にある同一法人の在宅介護支援センター、ヘルパーステーションで地域住民からの相談を受ける仕組みになっており、そこからの紹介で事業所の見学も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、入居前からのかかりつけ医を利用している人もいて、受診は家族が予定を立てて同行している。また、法人理事長が経営する診療所から週2回の往診、事業所が契約する協力医療機関のほかに、精神科の相談指導もある。状況は家族からの受診報告も含めて、「通院往診ノート」にその都度記録している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた時は、その時の利用者の状況により対応することを、事前に家族、医師と確認している。管理者は管理者研修で重度化や終末期ケアの実践事例を受講し、職員に報告して、重度化や終末期について職員間で話し合っている。「介護の緊急事態マニュアル」を整備しており、重篤時はマニュアルに基づき対応する。実際には、本人、家族の意向を踏まえて、家族と話し合いを重ね、医師の指示を受けて、支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用契約書に秘密保持条項があり、利用者から「個人情報使用同意書」を得ている。「就業規則」にパソコンでの個人情報の取り扱いも定めている。「サービスの心得」に心がけ、礼儀を挙げて、言葉かけや対応は利用者の誇りやプライバシーに配慮している。他の人に聞かれたくないようなことは居室で話している。訪問調査時の、職員の接し方は温かくやさしいものであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は法人のキーワードや事業所の理念を意識して、利用者一人ひとりの生活ペースを大切に支援している。規則正しく食えることが健康、体調維持に大切として、食事は定時に全員が食卓について摂っているが、その他の時間の過ごし方は自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜刻み、茶碗拭き、テーブル拭き、男性には下膳などそれぞれの役割がある。食材の買出しに利用者と一緒に役割を分担して、食材を選んでもらうこともある。食事中に味の評価を聞いたり、訪問調査での昼食時には「今日のサラダは○さんが切ったサラダです」と説明するなど、話題を取り入れて食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望で午前にも入れる。足の冷える人には足湯をしてもらっている。入浴を好まない場合には、「明日は医者があるからきれいにしよう」と誘ったり、動物好きの人には浴室に犬の絵を貼り、好みの雰囲気を作り入ってもらっている。前回入浴しなかった人は優先して案内している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握し、畑仕事、洗濯物たたみ、お茶だしなどを行ってもらっている。訪問調査の昼食時に、「今日のサラダは○さんが切ったサラダです」などと皆の前で発表して感謝していた。職員が弾くギターに合わせた大合唱は利用者にも人気がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調を見て、晴天の日は利用者全員で散歩に出かけている。近くの川沿いに平坦な散歩道があり、散歩コースに取り入れている。花見、デパートでの買物、外食、江ノ島へのドライブなど数多く出かけており、事業所内に写真を貼り出している。利用者が昔住んでいた街の店へ行ってみたり、家族と墓参りしたり、本人の希望を行動に生かしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しない。2階入口のセンサーは家族の了解を事前にとっている。職員間で声かけし、見守りにより利用者の様子や所在を把握している。「行方不明者がでた時の対応」手順書を整備しており、万が一の際には手順書に基づき対応する。居室に鍵はついていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。「災害時利用者マニュアル」に災害発生時の対応手順を、利用者個人別に作成している。点検確認表「日常の自主検査」に毎日点検の実行記録をしている。防災頭巾、飲料水の備蓄もしている。運営推進会議の委員である地区長、地主を通じて、地域へ災害時の協力要請を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「日勤日誌」に毎日の食事摂取量、水分摂取量を記録している。体重の増減の記録も参考にし、摂取カロリー、水分摂取量の目安を設定している。今年度は栄養士等による栄養に関する確認をまだ受けていない。食事前に口腔体操の歌の合唱を日課としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はススキやカラスウリの実を飾り秋を演出している。みんなが集まる居間の南側は大きい窓で明るく、廊下、トイレも明るい。レクリエーションの小道具は空き箱などを利用して収納しており、乱雑な雰囲気はない。食事ときはテレビを消して会話を楽しむなど、音にもめりはりをつけた生活を心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものの持ち込みをすすめており、入居案内に明記している。居室には使い込まれた座卓、たんす等が持ち込まれ、居室の床は好みに畳敷きもフロアマット敷きもある。自宅から連れてきた飼い猫と一緒に暮らしている人もいる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム こゆるぎの家
(ユニット名)	さざんか
所在地 (県・市町村名)	神奈川県中郡大磯町国府本郷1194-1
記入者名 (管理者)	日高 芳子
記入日	平成20年9月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中に地域の中で一人ひとりの暮らし方を尊重することもあげられており、独自の理念を作り上げている。	○
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすいところに掲示し、運営上の方針や目標などを職員へ話し、理解、協力を求め、実践に向けて取り組んでいる。	○
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営懇談会や家族会で説明し、理解してもらえるよう取り組んでいる。	○
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶や声かけを実施している。隣近所の方が犬を連れて遊びに来たり、散歩の時など気さくに声を掛けていただいている。	○
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとの地域行事には可能な限り参加し、お祭りの休憩場所を提供したり、地区の文化祭に作品を出展し、地元の人々と交流する事に努めている。出展は個人の自信につながり、励みになっている。	○
			地域の高齢者の方や子供達に気軽に立ち寄ってもらいお茶を飲んでもらったり、一緒に楽しめる行事を増やしたい。 災害時の相互協力など関係を深めたい(地域の防災担当者に挨拶し、今後会議等に出席を検討中) 又、今年度の運営懇談会のテーマを《地域の子供たちとふれあう》とし、幼稚園の訪問等子供たちとの交流を通して、地域と関わる機会を増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域の高齢者に気軽に立ち寄ってもらい、一緒に楽しい時間を過ごしてもらいたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>自己評価をすることにより、自分の仕事を冷静、客観的に見直し、改善に努めたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>市町村等と連携継続し質の向上に取り組みたい</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>必要に応じ利用する。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に説明をし、理解を得てから契約している。	○	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつも話しやすい雰囲気作りに努め意見があった時は ケースカンファレンスや毎日の申し送りで検討している。意思表示が困難な方の訴えに気付くよう、気配りに努力している。	○	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の訪問時や月毎に書面で金銭・健康状態・行事報告をしている。職員の移動等は年4回発行のおたよりや年2回の家族会で伝えている。心身の状態の変化で深刻なものはその都度電話報告している。	○	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会や運営懇談会を定期的に行い機会をもうけている。また随時意見等は受け付けている。苦情申し立ての連絡先、責任者等を提示してある。	○	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	年2回の全体会議・ケースカンファレンスの時に意見や提案を機会がある 又人事考課表に記入することもできる。	○	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	外出時や行事など、また体調不良など通常より人数が必要な時間に職員確保が出来るよう努めている。急な場合でも利用者に利益のあるよう勤務調整している。	○	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	移動は最小限に抑え、離職については不安にならないように説明している。職員の入れ替わり際には、混乱しないように新旧共に職員は対応に配慮している。運営者は欠員が出て、他の職員に負担がかからないよう、引継ぎの時期も考慮し、スムーズに移動が出来るように配慮している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人は1ヶ月研修を受け1人立ちしている。研修後研修報告をし、習得漏れのないよう管理者が確認している。また段階に応じて社内研修・部外研修への参加や資格取得を促している。</p>	○	新人研修のカリキュラム作りを検討中。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在法人内の交流はあるが、同業者との交流は実現していない。</p>	○	職員は他の同業者との交流を望んでおり、今後検討していく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレス軽減の研修を実施したり、新人歓迎会や忘年会等の親睦会を開いている。個々の職員の能力を尊重し、自由な発想で仕事に取り組んでもらっている。常に何でも話し合える環境を心掛けている。職員も一緒に楽しめる行事も取り入れている。</p>	○	足を伸ばせる休憩室の希望があるが、現状では建物の構造上難しい。管理者として職員の話聴く機会を多く持ちたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>普段からそれぞれの職員の勤務状況は把握し 向上心を持てるよう声かけに努めている。</p>	○	職員の努力や実績を認め次につなげるようにする。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接・訪問などの機会に傾聴する。なるべく本人の声を聞くようにし、何気ない会話や行動からも本人の求めに気づくよう努力している</p>	○	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前は面接や訪問をし、入居後は訪問時や電話で話し合い利用者を理解し、受け止める努力をしている。</p>	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の話を良く聴き、理解し、支援を見極め必要なサービスを提供する。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら入居前は家庭に訪問したり、ホームの見学に来てもらったりして徐々に慣れてもらうようにしている。ホームに見学に見えた時は、入所者の方と会話を楽しんでもらったり、部屋も入所者に案内してもらっている。	○	入所直前でなくても、気軽に何回でもホームに来てくださるよう声掛けしている。今後リクリエーションや行事を体験していただくよう、検討している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊敬の念をもって接している。利用者の得意分野(昔取った杵柄)で力を発揮してもらい、職員が学ばせてもらっている。利用者から職員にいたりや励ましの言葉がある。	○	季節の行事、味噌・こんにゃく作りや畑仕事、様々な生活の智恵を教えてもらっている。教わった事は皆で楽しみ、続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段から話し合える関係は出来ていて情報交換は蜜にしている。家族の得意とする事で、ボランティアとして参加していただいたり、家族の介護の経験を開き、参考にしている。	○	家族が友人と盆踊りの練習やフラダンスのボランティアに来てくれているのでこの関係を大切にしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族・取り巻く人の関係を概ね把握している。家族と疎遠になっている場合は、電話や通信で近況報告をしたりして来訪のお願いをしている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等の手紙を勧め、希望があれば電話も支援している。外出時には馴染みの場所を通ったり、馴染みの店に買物に行っている。来訪者は制限せず、昔からの良い関係が続くよう支援している。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一体となって出来るレクリエーションをしたり、必要に応じて間に入り、よい関係が築けるよう支援している。利用者同士の相性を把握し、時としてリビングの席替えを検討したり、職員が利用者同士の会話を取り持ったりして気を配っている。皆が孤立しないよう配慮している。	○	話の繰り返しや行動などでトラブルが起きる事があるが、認め合う関係が続くよう支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とする人には相談に乗ったり、その後の状況を伺ったりして支援している。退所後亡くなった利用者の家族から、入所時を懐かしんで連絡を頂いている。	○	退所後も家族の精神的支援が必要であれば、希望に添いたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は大切にしているがうまく表現出来ない方もいる。何気ない会話に耳を傾け、無言の訴えに表情・動きから汲み取るよう気を配っている。	○	《無言の訴え》を汲み取れるよう、気使いを大切にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居の方の入居前の暮らしは不明な部分もあるが、概ね把握している。これまでのサービスの利用経過については担当ケアマネ等から報告を受けている。可能な限りの情報収集に努めている。	○	入居前の情報をホームでの生活に活かしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの有する力を把握しているが、変化もあるので、その都度職員間で情報交換し柔軟に対応している。	○	その日の状態をよく見て、無理のないように支援する。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者の意見を基にアセスメントを行ない、介護計画を作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議や日常の申し送りで随時見直しをして対応し、必要な関係者とは連絡、相談をしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を毎日記録しており、個人生活状況記録や通院・往診ノートを活用し、随時見直しをしている	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身状態の低下にある人は特別養護老人ホームの説明をしている。通院の介助にヘルパーを利用している。又、特養の広い園庭や部屋をリクリエーションに活用、外出時には大型の車を利用している。他事業所の介護職やケアマネに相談している。	○	多機能性を活かし、柔軟に対応したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音楽・折り紙・本の貸し出し・外出等様々なボランティアに加え、隣接する障害者施設内の絵画教室へ参加している。	○	地域資源の活用の幅を広げたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣が相談センターになっており、ケアマネージャと情報交換する事ができる。介護情報や地域資源等の情報を得ている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護において協働している。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を選択、適切な医療を受けている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>相談や適切な助言をしてくれる医師がいる。</p>	<p>○</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員は勤務していないが法人内には相談できる看護職はいる。</p>	<p>○</p> <p>利用者の体調の変化や急変時に相談できる看護職がほしい。ホーム内において利用者の状態を把握している看護師が望ましい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の際は利用者の混乱を最小限度に止めるため、普段の様子を報告し情報交換に努めている。家族・医師も交え、出来るだけ早く退院するよう話し合い、ホーム側も早めに受け入れ体制を整えるよう努力している。</p>	<p>○</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>どこまでならホームで十分な支援が出来るか、家族・医師と話し合いを持っているが、その時の状況にもよるので、はっきりとした方針を打ち出しにくい。</p>	<p>○</p> <p>終末期の対応については、本人や家族と話し合いの機会を持ち、それぞれ基となる方針を決めておきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者の状況に応じて主治医の指示や本人家族の意向をふまえ、職員間の話し合いケースカンファレンスを通して重度化・変化への対応をしている。出来ること、出来ないことについてよく話し合い、冷静に見極めている。又、家族にも理解を得ている。</p>	<p>○</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者の不安を少なくし早く、新しい環境に慣れるよう、情報交換や話し合いをもとにサービス内容を検討している。</p>	<p>○</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけや対応は誇りを傷つけないようまた不利益を被らないように配慮している。やむを得ず注意したり、他人に聞かれない助言をする時は、居室で話している。個人情報の取り扱いについては職員全員が熟知していて、情報は事務所内に保管している。	○	馴れ合いから、配慮が欠けないよう気をつけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	分かりやすく説明し、話しやすい雰囲気を作り本人の思いをくめるようにしている。言葉での説明が難しい利用者は行動や表情を見落とさないようにして支援している。	○	利用者の力は変化していくので常に見落としの無いよう支援していきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて居室で本を読む人・テレビを見る人・編み物をする人など希望にそって過ごしている。日常生活では急かさず本人のペースに合わせている。過ごし方が分からない人には、能力に応じて過ごし方を提案している。	○	利用者の希望とそれぞれの持っている力によりレクリエーションや家事に参加してもらうよう支援する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれは在宅生活の習慣を尊重して、それぞれに合わせて支援している。美容院は本人の希望で美容室・床屋に行っている。着る物や整髪、顔そり等気を配っている。好みの服を本人が選び購入する機会を作っている。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会では本人の好みの物を準備している。職員と一緒に食事作りをしたり、後片付けを日常的にしている。季節の食材や料理について話題を提供している。	○	献立を立てたり、買物に行ったり、いっしょに作ったりして家庭らしい雰囲気をもち続けたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつの時など利用者に選んでもらったりして日常的に支援している。希望者に行事の時にお酒を提供している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄能力とパターンを把握し支援している。訴えの無い人は失敗しないように、定時に声かけし誘導、介助している。夏場紙オムツを綿の失禁パンツに変える等、なるべく快適になるよう工夫もしている。	○	利用者の力に合わせて支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に希望が無ければ日中午後に入浴している。午前の希望があれば、柔軟に対応している。夜間は夜勤者が1人なので、対応が難しい。楽しく入浴できるよう、入浴を勧める声掛けに気を使っている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	申し送りや引継ぎで睡眠状況を把握しており、日中の散歩や運動で気持ちよく眠れるよう支援している。また慣れた布団、部屋の明るさなど長年の習慣を大事にしている。部屋の温度にも配慮している。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとりの生活歴や以前の趣味・楽しみを聞き、それぞれに合った縫い物、編み物、朗読、畑仕事等に参加してもらっている。掃除や調理等の役割を持つことにより、皆に感謝され、本人も励みや喜びになっている。	○	更に役割や楽しみを支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、能力に応じてお金を所持しており、買い物同行などでは支払いを見守り、自分で買う楽しみを支援している。隣の福祉センターでおやつを買うのが楽しみな人もいる。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良ければ散歩やドライブ、外出を心がけ、希望があれば買い物など希望に添えるようしている。天候や利用者の体調によるので、予定は大まかにし、条件の良い日に実行している。	○	1人ひとりの希望に添えたいと考えている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を聞きながら懐かしい場所への外出・花見・デパートで買い物・レストランなど外へ出る機会を多くしている。外食は楽しみの一つになっている。今年度はバスを借り、遠方まで外出し好評だった。	○	個々が懐かしい所や気分転換になるような楽しい所へ出掛ける機会を多く持ちたい。又、家族と一緒にの外出も検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にそって支援している。年賀状は全員にすすめ、完成が難しい人は職員が手伝っている。電話は贈り物へのお礼等、希望時に支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間の制限無く訪問できるようになっており、訪問しやすい雰囲気を作っている。居室にて対応したり、おやつを一緒にしたりする事もある。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修会を行っており、職員は身体拘束の不利益を理解し、拘束をしないケアを徹底している。拘束ゼロ委員会を月1回実施している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に日中鍵はかけていない。在宅での生活に近い形のケアサービスを目指し、開放的で安心できるようにしている。居室には鍵は無い。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在や様子を把握し就寝時も約2時間おきの安否確認をしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管場所を設け管理している。必要な場合は見守りの中で取り扱っている。	○	利用者の力に合わせて包丁や針の使用を支援している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人ひとりの状態や行動に気を配っている。薬は職員が保管し、服薬管理している。 月1回の事故防止委員会を実施し、どんな小さな事でもヒヤリハットとして取り上げ、事例を検討し事故防止に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応マニュアルを作成し、職員全体が内容を熟知しているが、訓練を定期的に行なう事が難しい。	○	定期的に訓練を実施する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害時に備えた避難訓練を実施しており、開所当初より地域の協力をお願いしている。	○	夜間帯対応の避難訓練も考えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランに基づき、説明と話し合いがなされている。状況の変化により、必要に応じて不安の無いように、家族に説明し理解してもらっている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックを実施し、体調の変化を見逃さないようにし、変調あった場合は医師との連携を図っている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、職員が把握しており、管理している。また通院・往診ノートにて変化を確認している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理食材の工夫や水分摂取、散歩や体操などで予防に取り組んでいる。また医師と相談し必要な人には薬を処方してもらっている。排泄表に記録し排泄状況を把握している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを基本としている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日勤日誌に毎食毎の食事量・水分量を記入し栄養や水分が確保出来ているか確認している。1人ひとりの体重の増減も把握している。水分が少ない人には好みのもや形を変えて提供している。また冷たいそうめんやうどんが嫌いな人には温かくし、食べてもらえるよう工夫している。お粥希望の人には別に用意している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルがあり実行している。他で流行している時は目のつく所に取り決りを掲示し消毒等実施を徹底している。風邪を引いている人の来所は遠慮してもらっている。利用者にはうがいや手洗いを励行してもらっている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周りは使用後は掃除をし、調理用具等は漂白、日光消毒をしている。冷蔵庫の整理を心がけ、食材も新鮮で安全なものを使用している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植え、めだかを飼ったり、ベンチで一休みできるようになっており、玄関内には花を飾り、今月の行事などを案内している。夏にはよしずで日陰を作り、緑を這わせ、見た目に涼しげな雰囲気を作っている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や絵を飾っている。玄関外の緑のカーテンには、きゅうりやゴーヤがで成長を楽しんだり、憩いの場として喜ばれている。共用の空間は不快な音や光がないようその都度配慮し、清潔を心がけ、リビングには季節の花を飾ったり、居心地良く過ごせるよう工夫している。廊下には写真を貼り、思い出を楽しんでいる。風呂の脱衣所は目隠しのカーテンで仕切っている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを3箇所設置しているので自由に選ぶ事が出来るようになっている。玄関先のベンチも寛ぎの場になっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族で相談し、家具から箸まで使い慣れたものを持ってきてもらっている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時の窓の開放、調理中の換気など全体の換気、空調は意識的に行なっている。室温は温度計を準備し、調節、各居室も同様、臭気の除去やエアコンでの温度調節も行なっている。室内外の温度差が大きくないよう気を付けている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも設置されており、床の素材も工夫されており、歩行器を使用する人もおり、安心して移動でき、自立した生活を送れるよう支援している。	○	利用者の変化に合わせて柔軟に対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には表札があり、場所の表示も馴染みの言葉で提示している。手作りカレンダーには過ぎた日をマークし、更に日めくりカレンダーも併用してわかりやすく、混乱や失敗を招かないよう工夫している。	○	利用者の変化に合わせて柔軟に対応していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを設け、散歩しなくても外気浴ができ、歌をうたったりお茶を飲んだりしている。花を植えたりする他に焼き芋・そうめん流し・バーベキュー・どんど焼き・お盆の迎え火、送り火などをして楽しんでいる。	○	なるべく外に出て楽しめるように工夫したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がそれぞれの楽しみや役割を持ち、寛ぎながらもハリのある生活が送れるように取り組んでいます。まず本人から今までの生活の様子を教えてもらったり、家族から情報を得たりして進めています。出来ること出来ないことを把握し、無理強いせず本人のペースに合わせ、現在の力に合った家事、野菜の皮をむく・刻む・米を研ぐ・分けるなどの調理や洗濯・洗濯たたみ、掃除、畑仕事、趣味では読書、編み物、縫い物、絵、書道などに自由に参加してもらい、職員は褒めることを心掛けており、生き生きと生活され表情が良いと思います。また毎日の散歩や車での買物・外食・花見等に出掛ける事により気分転換を図り、身体機能の低下を防ぐとともにホームに閉じこもることのないように努めています。職員も利用者から学ぶことも多く、日々の生活を一緒に楽しんでいます。

地域との交流も大切にし更に深めたいと考えています。お祭りの時はお神輿が廻ってきて子供さんや地域の方と利用者が話す機会があったり、地区の文化祭や障害者センターのおまつりで作品展示や販売をしています。折り紙・ギター弾き語り・リコーダー・オカリナ・マンドリン演奏会などたくさんのボランティアの協力をいただいています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム こゆるぎの家
(ユニット名)	やまゆり
所在地 (県・市町村名)	神奈川県中郡大磯町国府本郷1194-1
記入者名 (管理者)	鈴木 良子(日高芳子)
記入日	平成20年9月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	更に日常的に伝えていく機会をつくっていきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	○	(取り組んでいる) 三味線やオカリナ、リコーダーなど近隣の方の趣味を披露する場所としても使われている。、日常のお付き合いが出来るよう取り組んでいる。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	老人会や福祉推進委員会への参加、交流を可能な方法で進めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>「こゆるぎの家」の存在が知られ、ご近所の中には独居の高齢の方が三味線演奏のボランティア活動に積極的である。又運営懇談会で話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域の人にグループホーム、認知症ケアについて、より理解される活動をしたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は自らを見つめなおす機会になっている。外部評価を実施する意義を理解し、これまでの評価を見直し、会議や日常的な話し合いで具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営懇談会では利用状況などを報告し、意見を聞き、サービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>障害福祉連絡会に参加、行事などの情報交換、町福祉課、消防、社協、包括などの日常的に連携している</p>	○	<p>サービス事業者連絡会などで地域の連携を図る</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員研修、認知症研修などで学び利用者に紹介、活用されている</p>	○	<p>職員研修を続けて行なう</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全体会議で説明、研修がなされており、防止に努めている</p>	○	<p>職員と個別面接をするなど、職員のメンタルヘルスに留意していく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書提示しながら口頭でも説明し、理解、納得をしてもらっている。更にキーマンに対してだけでなく必要に応じて複数の家族についても説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ意向が表現できる雰囲気づくりに努めており、日々の生活の中で聞き取り、散歩や外出、買い物等にも反映させている	○ 利用者の中には意見表明が困難な方もいるので意見を徴集する側の努力を強化したい。スタッフによる居室担当など、なじみの関係を強化して安心して意見が反映できるよう更に進める。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には必ず健康状態など最近のご様子を報告をしている。毎月、個人預かり金明細書及び月に一ヶ月の様子を記載、家族に送付しており、また年4回こゆるぎ通信を送付している	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年数回家族会を実施し、ご意見を聴いている。運営懇談会に利用者の家族が参加されていて、事業所の運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議(年2～3回)時に発言できる。また職員の人事考課表に意見や提案を書く事が出来る。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時や行事など、また体調不良など通常より人数が必要な時間に職員確保をしている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にとどめられており、ダメージの無いように配慮している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加するよう求められており、スキルアップの研修を希望する場合も賛同が得られる	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会をつくる	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	問題が起きたときなど相談できる環境づくりに努めており、親睦会も行なわれている	○ 職員の休憩場所を確保したい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務年数などに応じて資格取得や研修の参加を促している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の関係する様々な問題を把握するよう傾聴し、安心して落ち着ける状況をつくれるよう努力している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談員が来所相談を受け、本人や家族の状況把握につとめる。その後提供責任者などが自宅や入院中の病院など訪問し、求められていることをよく聴き、ホームについても充分説明できる時間をつくる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を聴くようにし、他のサービス利用も含め、対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染めるよう家族と蜜に連絡を取り、本人の生活リズムでできるだけ自然な形で過ごせるよう相談、工夫している。本人の状況に応じて、入所前に何回か来所の機会をつくるなど不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ある時は友人や家族のように喜怒哀楽を共にし、また人生の先輩として日常生活の中から知恵や経験を学び学ぶ事が多くある	○	農作業や季節の行事など常に教えていただく、学ばせていただく姿勢を心がけている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援していく上で同じ目的をもって支えてくれる人として協力しあい、信頼関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に認知症について更に理解を深めていただくよう、度々話し合いをしたり、ケア内容を知っていただくなかで安心していただくよう努めている	○	一部情報が不十分でわからない関係もあり、出来る範囲で書面にしてもらいたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に家族や本人の了解を得られた方の訪問は自由で、また手紙を出したりなど、関係が切れないように援助している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から観察し、利用者同士の関係を把握し、食事の席やレクリエーションでの位置は適宜席替えをし、ほど良い関係をつくれるよう配慮している	○	時には他の利用者さんの居室に遊びに行ってお茶を飲んだり、泊まることもあったので、そういった関係を大切にしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了した家族からの訪問や連絡は大切にしており、また医療福祉関係の相談体制はある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけその人らしく生活できるよう支援し、困難な場合でも本人の希望や意向に添えるよう努力している	○	希望を表出できない方もいるので普段の会話や行動、家族からの情報を得て、その人の意向を把握する
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の情報をもとにそれまでの生活歴などが個人ファイルにあり、家族からの情報も伝えることができる		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース会議や日常の申し送り、日勤日誌の記録などで現状を総合的に把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者の意見を基にアセスメントを行ない、介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議や日常の申し送りで随時見直しをして対応し、必要な関係者とは連絡、相談をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を毎日記録しており、個人生活状況記録や通院・往診ノートを活用し、随時見直しをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、病院の付き添いなど必要な時に、家族が急に対応できない場合にも工夫して対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによるミニ・コンサートへの参加や本人の希望で町のサークルなどに参加しており、支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣が居宅や在支の相談センターになっており、他のケアマネジャーからも、情報を得ている。福祉用具の利用など支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護について町社協と協働している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を、選択決定している。かかりつけ医の受診時には日頃の様子を記録などにより伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	日常の健康管理の相談の出来る看護職の常駐を希望している
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	一日のスケジュールなど利用者さんと一緒に決めたりするなど職員が工夫を務める必要がある
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して声かけに気をつけ、一人ひとりにあった支援を行なっている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。時間帯も希望にあわせ、湯温など希望に添うようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	申し送りや引継ぎで睡眠状況を把握しており、日中の散歩や運動で気持ちよく眠れるよう支援している。またお気に入りの布団、部屋の明るさなど長年の習慣を大事にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今まで飼っていた猫の世話や、ホーム内の役割について個別的に考え、支援している	○	役割や楽しみ、気晴らしを更に得られるように支援する
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、能力に対応して金銭管理を行っており、買い物同行などでは支払いを見守り、支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良ければ散歩やドライブ、外出を心がけ、希望があれば買い物など希望に添えるようしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食に出かけたり、お花見などの外出もしている。また家族と墓参りに行かれるなど本人の希望に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由に出来、必要があれば文章を考えるお手伝いをし、支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるようになっており、訪問しやすい雰囲気を作っている。居室にて対応したり、おやつを一緒にしたりする事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修会を行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○	安全性を考え、戸口などにセンサーを設置する時がある
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に日中は鍵をかけていない。外出時対策には2階入口にセンサーにて対応し、家族にも説明し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守りと職員間の声かけをし、利用者の所在や様子を把握しており夜間は2時間毎の安全確認を行なっている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管場所を設け管理している。必要な場合は見守りの中で取り扱っている。	○	裁縫をする方は針の本数を確認しチェックを行なっているが、今後の状態では工夫が必要と思われる
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を月に1回実施、それを回覧、ケース会議の時に口頭でも伝え、再発防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応マニュアルを作成し、職員全体が内容を熟知しているが、訓練を定期的に行なう事が難しい	○	定期的に実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害時に備えた避難訓練を実施しており、開所当初より地域の協力をお願いしている	○	夜間帯対応の避難訓練も考えていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプラン作成と同時に家族と話し合い、モニタリング等を行い、その都度説明をし、良い環境を作るよう努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックを実施し、体調の変化を見逃さないようにし、変調あった場合は医師との連携を図っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、職員が把握しており、管理している。また通院・往診ノートにて変化を確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理食材の工夫や水分摂取、散歩や体操などで予防に取り組んでいる。また医師と相談もしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけ、誘導にて個々に対応した口腔ケアを行っており、歯医者から磨き指導を受けている人もいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体重増減を把握しており食事量の調整、調理工夫をし、健康状態に合わせて支援している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する予防、対策のマニュアルを作成し、実行している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周りは使用後は掃除をし、調理用具等は漂白、日光消毒をしている。冷蔵庫の整理を心がけ、食材も新鮮で安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植え、ベンチを置き、おしゃや一休みできるようになっており、玄関内には今月の行事などを案内している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音また職員の会話のトーンなどその都度配慮している。壁飾りには季節感を取り入れたものを作り、花を置いたり、廊下には入居者の作品や写真を貼っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを3箇所設置しているので自由に選ぶ事が出来るようになっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人、家族で準備をし、仏壇を持ってこられたり、ペットと一緒に暮らしたり、なれた布団を使用したり、居心地良く過ごせる工夫に努めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時の窓の開放、調理中の換気など全体の換気、空調は意識的に行なっている。室温は温度計を準備し、調節、各居室も同様、臭気の除去やエアコンでの温度調節も行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも設置されており、床の素材も工夫され、歩行器を使用する人もおり、安心して移動でき、自立した生活を送れるよう支援している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には表札があり、場所の表示も馴染みの言葉で提示している。手作りカレンダーには過ぎた日をマークし、わかりやすく、混乱や失敗を招かないよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りにプランターを置き花を育て、みずやりが日課になったり、外周りの草取りを一緒に行なったり、ベランダで洗濯物を干したり、花を置いて楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がそれぞれの楽しみや役割を持ち、ハリのある生活が送れるように取り組んでいます。まず本人から今までの生活の様子を教えてもらったり、家族から情報を得たりして進めています。出来ること出来ないことを把握し、現在の力に合った家事、野菜の皮をむく・刻む・米を研ぐ・分けるなどの調理や洗濯・洗濯たたみ、掃除、畑仕事、趣味では読書、編み物、縫い物、絵、書道などに自由に参加してもらい、生き生きと生活され表情が良いと思います。また毎日の散歩や買物・外食・季節の花を見学に出掛け、身体機能の低下を防ぐとともにホームに閉じこもることのないように努めています。

地域との交流も大切にし更に深めたいと考えています。お祭りの時はお神輿が廻ってきて子供さんや地域の方と利用者が話す機会があったり、地区の文化祭や障害者センターのおまつりに作品展示をしています。リコーダ・オカリナ・マンドリン演奏会や外出のお手伝いなどたくさんのボランティアの協力をいただいています。